

わが

市民力を結集させ、100年先も 誇れる魅力あるまちを目指して

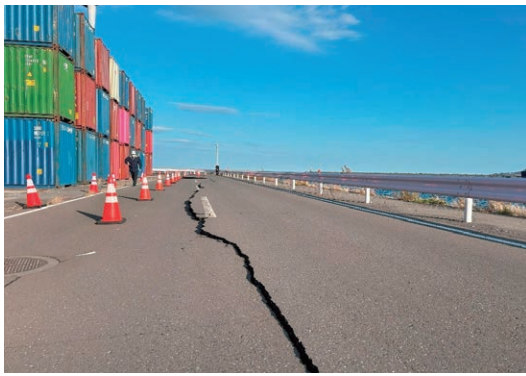
八戸市について

本市は、太平洋に臨む青森県の南東部に位置する中核市で、青森県内第2の都市です。イカの水揚げ53年連続日本一など全国有数の水揚げ量を誇る八戸港や、臨海部には重厚長大型の製造業が立地する北東北有数の工業都市として発展してきました。また、種差海岸や蕪島などの自然景観、三社大祭やえんぶりなどの伝統行事、さらには国内最大規模を誇る館鼻岸壁朝市など、魅力的な資源が数多くあるまちです。

青森県東方沖を震源とする地震について

令和7年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震では最大震度6強を観測し、市内全域

で多くの住宅や施設のほか、鉄道・港湾といったインフラが甚大な被害を受けました。一方で、地震に起因する火災の発生はなく、人的被害が比較的少なかったのは、三陸はるか沖地震や東日本大震災を乗り越えた経験による地域住民一人一人の防災意識の高さによるものと考えております。徐々



八戸港コンテナターミナルの被害

に元の市民生活を取り戻しつつありますが、引き続き、震災からの復旧・復興に全力で取り組むとともに、地震発生直後より全国の皆さまから温かいご支援を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

若者の活躍について

本市では、人口減少が続く中、特に若年層の市外流出に歯止めがかかっておらず、若者の地元定着や人材還流が大きな課題となっています。そこで、令和4年度に、若者や女性にとって魅力あるまちの実現に向けて「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」を立ち上げ、市に対して毎年政策提言をいただき、提言に基づく取り組みを市政に反映させてきました。令和8年度からは、提言のみならず、



八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

ず、会議の委員自らが取り組み案を実証しながら、より実効性のある取り組みを創出する組織へと発展させていきます。また、産学官連携による長期インターンシップ事業や市内高等教育機関の首都圏同窓会を活用したUターンの促進、市内企業の魅力を知る産業フェアなどを実施することで、若者から選ばれるまちを目指してまいります。

産業力の強化について

若者から選ばれるまちを目指す



八戸港



八戸せんべい汁



いちご煮

上で、若者にとって魅力的な働く場が確保されていることが重要で、そのため、企業の経営力強化や生産性の向上のほか、新たな付加価値の創出を促進していくとともに、現在策定作業を進めている次世代エネルギー導入に向けたビジョンの実現に向け、プロジェクトの検討やコンソーシアムの設置を進め、GX推進による産業力の強化を図っていきます。また、若者・学生・企業人材が連携したデジタル人材コミュニティの形成や中小企業向けのDX専門のサポートセンターの設置を通じて地域のD

Xを加速させ、地域や事業者の課題解決を進め、さらに、若者が地元企業の魅力に触れる機会を増やすことで、地元企業が若者の就職先の選択肢になるように各種取り組みを展開してまいります。

食のまち・八戸の推進について

本市は、豊かな海の幸・山の幸に恵まれ、「八戸せんべい汁」やウニとアワビの潮汁「いちご煮」を始めとする郷土料理や、地元の味を気軽に楽しめる横丁文化や朝市文化が根付いた、食の宝庫であります。この食の魅力を最大限に生かして交流人口の拡大を図るため、令和7年5月に「ハマル、ハチノヘ。」観光振興プランを策定し、「食のまち・八戸の推進」を施策の柱の一つに据え、食を通じて八戸の旅の満足度を高めるとともに、「八戸といえはこれ」と想起させる独自性のある食の観光のブランドづくりに取り組んでいきます。具体的には、本市内の海鮮文化を「食べて・学んで・巡る」観光コン

テントとする「ワールドシーフード・ウォーク」の開催や、「はちのへ食文化会議」を通じて本市の食文化の情報発信に関する取り組みを推進することにより、食を含めた観光を産業として確立するとともに、多くの人から選ばれるまちの実現を図ってまいります。

併して誕生した本市は、令和11年に市制施行100周年という大きな節目を迎えます。先人たちのたゆみない努力によって幾多の困難を乗り越え、北東北を代表する都市へと発展を遂げてきましたが、先人の思いが築き上げたこの八戸市を次の時代へとつなぎ、市民の皆さまと共に、100年先も誇れるまちを創り上げてまいります。

今後の展望

昭和4年に、当時の4町村が合

プロフィール

- ◆ 面積 305.56 km²
- ◆ 人口 21万2089人
- ◆ 世帯数 10万9917世帯

〔将来都市像〕ひと・産業・文化が輝く北の創造都市

〔まちの特徴〕全国屈指の水産都市・北東北有数の工業都市であり、文化と自然が調和したまち

〔市町村合併〕平成17年3月31日 南郷村が合併



八戸市長 熊谷雄一



〔特産品〕八戸せんべい汁、いちご煮、イカ、八戸前沖さば、食用菊、イチゴ、日本酒、八戸ワイン

〔観光〕種差海岸、蕪島、八戸公園、史跡根城の広場、是川縄文館、八食センター

〔イベント〕八戸三社大祭、八戸えんぶり、館鼻岸壁朝市、八戸花火大会、はちのへうみねこマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

今を大切に、 まちづくり 未来に希望を持てる

鎌ヶ谷市について

本市は、千葉県の北西部に位置し、なだらかな北総台地の上に広がる総面積21・08㎢のまちです。

市内には、東武アーバンパークライン、京成松戸線、北総線、成田スカイアクセス線の鉄道4路線と道路網が発達しており、東京都心から25km圏内にあることから、都心や沿線都市にも近い住宅都市

として発展してきました。



鎌ヶ谷の梨

特に本市の中心部に位置する新鎌ヶ谷駅は、本市の顔ともいえる駅であり、成田空港や羽田空港へ乗り換えなしの電車一本でアクセスが可能です。

また、豊かな農地や緑の環境のある自然と調和したまち並みで、

特産品の梨は全国でも有数の収穫量を誇っています。そのほか、ブドウや桃、ブルーベリー、イチゴなどさまざまな果物の果樹園や直売所、観光農園も多く、朝採れの鮮度の高い野菜や果物を購入したり、フルーツ狩りができるのも魅力で、県内外から多くの方々が訪れ、大変人気を博しています。

子育て支援の充実

本市は、子育て世代にもうれしい安心のまちとして、令和7年度まで待機児童ゼロ(国基準)を11年連続で達成しています。令和7年9月に「幼保連携型認定こども園」が開設され、令和8年度および令和9年度には1カ所ずつ、新たな保育所などの整備を予定して

います。

令和6年3月には「東部児童センター」が開館し、市内六つのコミュニティエリア全てに児童センターが整備され、子どもの遊びの場が広がりました。また、市内には無料で1日遊べる「市制記念公園」から近所のポケットパークに至るまで、都市公園が充実しています。特に、市内最大規模の「市



市制記念公園 水遊び場



東部児童センター(市内中学生とのふれあい事業)

制記念公園」は、正面入り口近くに蒸気機関車と飛行機が展示され、その周りを走るバッテリーカーと合わせて人気のスポットです。また、園内には四季や自然を感じながら子どもたちが楽しく遊べるローラー滑り台や巨大アスレチックもあります。令和6年7月には足元から水が出る噴水式の水遊び場も新たに完成し、人気の場所になっています。

また、子育て環境の充実につながるため、経済的な負担軽減策として子ども医療費、高校生等医療費の助成、多子世帯の保育料およ



開発が進む新鎌ヶ谷周辺地区
スカイライナー（手前）と建設中の商業棟（奥）

び給食費の負担軽減、学校給食費の保護者負担の軽減などにも取り組んでまいりました。特に、学校給食費においては令和6年4月から小学校1年生の給食費の無償化を実施してりましたが、令和8年度から小学校全学年と中学校1年生の給食費にもその対象を広げました。

今後もし育てしやすい環境のさらなる充実につながるよう、全力で取り組んでまいります。

さらなるまちの発展に向けて 企業誘致を推進

現在、新鎌ヶ谷駅の南側では、令和8年度中の完成に向けて6階建ての商業施設や15階建て190戸のマンションの建設、南北自由通路の整備が進められています。さらに、近接する市有地への企業誘致が令和7年に決まったことで、オフィスビル2棟もそれぞれ令和10年度、令和11年度に完成する

予定であり、本市のさらなるにぎわいの創出に向けて大きな一歩を踏み出しています。

加えて、外環道と成田空港を結ぶ「北千葉道路」の事業化が進みつつあること、そして令和11年の完成を目指す成田空港の機能強化を控え、本市は今まさに「第二の発展期」の入り口に立っているとの思いを強くしています。引き続き、子育て世代への支援、「北千葉道路」の整備を見通したまちづくり、そして企業誘致に重点的に取り組む、「変革を未来につなげる原動力に」との思いで、本市のまちづくりを加速化させてまいります。

特に、企業誘致については、組織横断的に誘致に取り組む専門部署を令和8年4月に新設したところであり、地域の戦略的な活用を積極的に進めてまいります。

女性活躍の推進

まちの発展に欠かせない本市行政に携わる人材である市職員の女性管理職の割合は、平成28年度から令和7年度までの10年連続で千葉県内37市中最も高く、令和7年度は30・7%となっています。長

期的な視点で取り組んできた結果、先人となるさまざまな女性管理職がロールモデルとなり、女性活躍のための職場風土が醸成されました。今後も多様な視点を取り入れることで、各種施策に生かしてまいります。

「ふるさと鎌ヶ谷」を 目指して

これまで受け継いできた自然や

緑を大切にしながら、地域経済の活性化や企業誘致の推進など自主財源の確保につながる取り組みを進めていき、得た財源は多種多様な施策へ投じて市民サービスの向上へとつなげていく好循環をつくり上げ、未来に希望を持てるまちづくりを進めてまいります。そして誰もが活躍し、誇りと愛着の持てる「ふるさと鎌ヶ谷」を実現してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 21・08 km²
- ◆ 人口 10万9950人
- ◆ 世帯数 5万3868世帯

〔将来都市像〕人と緑と産業が調和し未来へひろがる鎌ヶ谷

〔まちの特徴〕都心にも空港にも近い抜群の交通アクセスと、緑豊かな公園や梨畑が点在する、自然と調和したまち

〔特産品〕梨、桃、ブドウ、イチゴ、



鎌ヶ谷市長
芝田裕美



ブルーベリー、イチジク、大根、カブ、ネギ

〔観光〕ファイターズ鎌ヶ谷スタジアム、鎌ヶ谷大仏、観光農園、下総小金中野牧跡、市制記念公園など

〔イベント〕鎌ヶ谷市民まつり、とっこめ桜まつり、スリランカフェスティバル鎌ヶ谷、ニコカマフェス、産業フェスティバルなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

子どもたちが将来に夢を 持てるまち東海市

東海市について

本市は、愛知県の西部、知多半島の西北端に位置し、西は伊勢湾に面し、面積4342ha、人口約11万3000人の都市です。本市の地形は、本市域の南北を通過する（都）西知多道路によって、内陸部と臨海部に区分され、内陸部には、名鉄常滑線と名鉄河和線が南北方向に通っており、令和6年3月に、市内九つ目の駅として加木屋中ノ池駅が開業し、鉄道駅周辺や幹線道路沿道を中心に住宅地が整備されています。



市内9駅目の加木屋中ノ池駅

ます。臨海部は、中部国際空港から20km圏内で、わが国の基幹産業である自動車関連産業や次世代産業である航空宇宙産業などのものづくりを支える名古屋港の港湾区域であるなど、中部圏最大の鉄鋼基地を形成しています。

東海市のまちづくりについて

本市のまちづくりは、まちづくり基本条例における「市民との協働・共創によるまちづくり」の考え方を大切にするとともに、東海市都市宣言（平成22年3月）で発信した「東海市らしさの創造と市民の夢の実現」を目指したまちづくりを進めています。「ともにつながり笑顔と希望あふれるまちとうかい」を将来都市像に掲げ、急速に変化する社会情勢に対応

しながら、未来に向かって希望が持てるまちづくりを進め、ふるさと東海市を誰もが誇れるまちに発展させるための新たな指針として、第7次総合計画を策定しました。

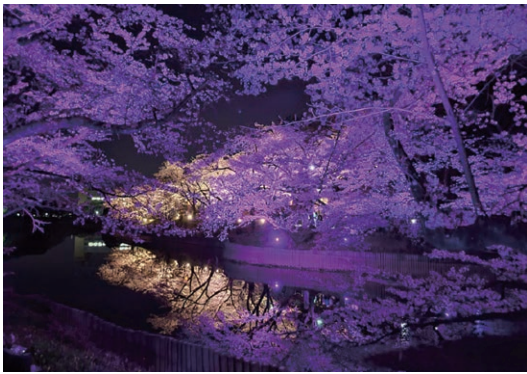
総合計画の策定では、これまで進めてきたまちづくりに対する課題や市民ニーズを把握するための市民意識調査を実施するとともに、目指すまちの姿の共有や将来のまちづくりの担い手の掘り起こしのための市民や大学生が参加する会議を開催しました。このような市民目線による視点を加えて総合計画の策定に取り組むことで、目指すまちの姿として「地域づくり」など五つの方向性に整理し、市民の皆さまとまちづくりに取り組んでいます。

ベビーファースト宣言について

第7次総合計画において、目指すまちの姿の一つを「安心して子育てができ、子どもが健やかに育っている」とし、子ども・子育て施策のさらなる充実に努め、子育てするなら東海市を目指しています。現在の本市独自の取り組みとしては、18歳までの子どもの急な発熱やケガに対する医療費（保険診療分）の全額助成や大学生など入院費の全額助成、第2子以降



ベビーファースト宣言



桜並木が続く大池公園桜まつりライトアップ



屋内の子どもの遊び場 (イメージ図)

力増進機能として
思い切り体を動か
せる空間を持ち、子
どもの創造性を育
む魅力的な遊びを
通じて、誰もが繰
返し足を運びたい
と思える施設とし
ます。また、遊具選
定に係るワーキン
ググループにおい
ては、市内に立地す

しては、日本青年会議所が提唱するベビーファースト運動への参画です。この運動は、子どもを産み育てたくなる社会を実現するための運動であり、自治体や企業などさまざまな立場で、年齢・性



自然体験や平和教育を学ぶ沖縄体験学習

保育料および副食費の無償化、市内中学校2年生全員が沖縄で自然体験や平和教育を学ぶなど、子どもの年齢に応じた各種支援策を実施しています。

別を問わず全ての人が、妊産婦を始めとした子どもや子育て当事者の方々に応援する意義深い取り組みと認識し、令和7年5月5日に、この運動の趣旨に賛同するベビーファースト宣言を行い、アクションプランとして取りまとめました。

その中の取り組みの一つ、気候に関わらず遊べる子ども向けの屋内遊戯施設の整備をご紹介します。近年の猛暑や地域の空き地の減少、子どもたちが天候に左右されず伸び伸びと遊べる場を求める声の高まりを受け、大池公園内に立地する旧市営温水プールを再利用した屋内の子どもの遊び場を整備します。この施設では、体

プロフィール



東海市長
花田勝重

- ◆ 面積 43・42 km²
- ◆ 人口 11万3117人
- ◆ 世帯数 5万2815世帯
- 〔将来都市像〕ともにつながり笑顔と希望あふれるまちとうかい
- 〔まちの特徴〕中部圏最大の鉄鋼基地が立地、都市近郊農業としてフキと洋ラン栽培に注力



- 〔特産品〕洋ラン、フキ、タマネギ、イチジク
- 〔観光〕大池公園、聚楽園大仏、平洲記念館、とまと記念館
- 〔イベント〕桜まつり、沖縄フェスティバル、東海まつり花火大会、東海ハーフレラソン

る2大学の学生と共に、子どもの発達と遊具の関連性、年齢や障がいの有無を問わず遊べるインクルーシブ遊具、東海市の郷土愛と遊びの観点について検討し、現在、その成果を設計に反映しているところですが、子どもたちの安全・発達・楽しさを考慮した遊具の選定と市内大学という地域資源を結び付けることで、若い世代のまちづくりへの参画や教育・福祉分野との連携に取り組み、郷土愛の醸成、関係人口の創出を目指して

結びに

子どものことを第一に考え、子どもたちが健やかに育ち、そして未来に夢や希望を持てるまちづくりこそが、高齢者や障がいのある方、全ての方にとって、自分らしく、生き生きと心豊かに暮らしていけるまちにつながっていくものと考えています。子どもたちが日々、ワクワクできるような未来志向の発想で臨んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

自然が生き活き、人が輝く交流の郷

吉野川と剣山に育まれた 桃源郷

徳島県三好市は、四国のほぼ中央に位置し、北は香川県、西は愛媛県、南は高知県に接しています。市町村では四国最大の面積を誇り、その約9割が山と川からなる自然に恵まれたまちで、桃源郷と呼ばれる山間部の美しい大地に約2万2000人が暮らしています。古くからこの地域は交通の要衝として、また、県西部での社会、経済、文化、観光の中心として発展してきました。



V字に深く切り込んだ ひの字溪谷

本市の魅力は、なんととっても自然景観です。暴れ川「四国

三郎・吉野川」と霊峰「剣山」に育まれた国の名勝・天然記念物「大歩危・小歩危」や秘境「祖谷」にあって、ミシュラングリーンガイドに選ばれた「祖谷溪」など、豊かな自然に恵まれた観光資源と文化遺産の宝庫です。

日本三奇橋の一つである祖谷のかずら橋は国の重要有形民俗文化財に指定されており、令和4年には西祖谷神代踊りがユネスコ無形文化遺産に指定され、有形無形文化財を有する市となりました。祖

谷のかずら橋よりもさらに上流にある、東祖谷集合集落は、平成17年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、東洋文化研究家アレックス・カー氏がプロデュースし古民家を改装した宿泊施設「桃源郷 祖谷の山里」があり、外国人観光客にも人気のスポットと

なっています。

昔ながらの山間部の急傾斜地での農業システムが平成30年に世界農業遺産に認定、令和5年にかずら橋を守り続ける取り組みが世界の持続可能な観光地TOP100に選定、令和6年に三好ジオパークが全国47番目の日本ジオパークに認定と本市の長く変わらぬ営みを時代が評価するようになってきたと感じます。



日本三大暴れ川 吉野川でのラフティング



三好市の夏を彩る いけだ阿波おどり

間事業者などが地域社会の活性化に結び付く事業展開で有効活用され、先進的な取り組みとして視察が相次いでいます。にぎわいづくりの面でも、官民連携

吉野川では平成29年に日本初のラフティング世界選手権、翌年にはウエイクボード世界選手権と二つの世界大会を開催し、令和4年には、「アウトドアスポーツのまちづくり」が評価されスポーツ庁長官から「スポまち！長官表彰」をいただきました。



西日本最大級 にし阿波の花火



九州大学・ヤマハ発動機株式会社との包括連携協定

そして令和7年から、森林の経済的価値を高めるため、二酸化炭素吸収源としての森林の役割に注目し、カーボンクレジットの仕組みを活用することに取組んでいます。CO₂の吸収量を調査し、その吸収源としての価値を必要とする

温室ガス排出権創出へ

イケ」が完成しました。この施設はWi-Fi完備の子どもから大人まで、誰もが安心して利用できる居場所であり、日々の学びや活動を支える欠かせない場所となっています。



生活の場・集いの場・学びの場 ミライケ

での四国酒まつりやいけだ阿波おどり、にし阿波の花火などの大規模イベントが定着してきました。また、令和7年の初めには、三好市役所新庁舎に続き、県市合築の池田高校寮と三好市地域みらい創発センター「ミラ

都市や企業にカーボンクレジットとして売却します。都市自治体や企業ともクレジットを介してつながり、共に森を育て、森全体の価値を未来につなぐ仕組みを検討しています。

こうした新たな取り組みに挑戦するために、九州大学やヤマハ発動機株式会社と包括連携協定を結びました。現在、市所有の天然林と人工林のCO₂吸収量を航空レーザーで計測し、立木情報や資源量の高精度データを取得しています。今後、さらに森林の多面的機能の評価やJクレジットとボラントリークレジット発行の手法を確立し、森林の適正管理を促進していくつもりです。産官学連携によるこの取り組みは、過疎が進む山間部での地域活性化のモデルとなると思います。

幸福度の高い持続可能な山間地のモデルに

私は、本市を「良い行いをしようとする人々が溢れる社会」「多様性を認め、弱さを分かち合い、助け合える包摂社会」にしたいと思っています。人口減少社会は、全ての人の活躍が大事で、人口が

減少しても、互いに助け合い、支え合い、誰かのために何かをしようと思う人が増えれば、地域課題の解決が図られ、一人ひとりの幸福度を上げることができると確信しています。今後、将来にわたり、本市が持続可能で安心して住めるまちであり

プロフィール

- ◆ 面積 721km²
- ◆ 人口 2万1525人
- ◆ 世帯数 1万1484世帯

〔将来都市像〕四季折々の美しい自然に育まれ、幸せいっぱい、桃源郷三好市は持続可能な山間過疎地のモデルとして生き残る

〔まちの特徴〕四国一広大な面積を持ち、四国の結節点、宿場町として栄えてきて、古き良き日本の生活と文化が残るまち

〔市町村合併〕平成18年3月1日、三野町、池田町、山城町、井川町、西祖谷山村、東祖谷山村4町2村が合併



三好市長 高井美穂



〔特産品〕日本酒（三好菊、芳水、今小町）、ジビエ、岩豆腐、こんにやくなどでこまわし、そば米雑炊、祖谷そば〔観光〕祖谷のかずら橋、大歩危峽、小歩危峽、祖谷溪、剣山三嶺トレッキング、ラフティング、ウエイクボード、サップなどのウォータースポーツ、ジップライン、フォレストアドベンチャーなどのアウトドア〔イベント〕四国酒まつり、いけだ阿波おどり、全国花火師競技大会「にし阿波の花火」、三好くるまつり、やましろ狸まつり、妖怪まつり、三好長慶武者行列まつり、塩塚高原野焼き

り続けるよう、社会構造の変化に合わせて行政機能を維持し、進化させていきたいと思えます。官・民・住民連携、国県市連携のもと、地域にあるものを生かし、大切に後世に継承しながら、住民の皆様を大切に、幸福度が高いまちをめざし、前進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。